

令和 4 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属高等学校	校長名	藤生 英行
幼児・児童・生徒数（R5.3.1 現在）	723	学級数	18

2 教育目標等	
① 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自主・自律・自由をモットーとする。 (2) 全人的人間の育成という本校の伝統的教育精神を基盤として、知育、徳育、体育の調和をはかる。 (3) 教科教育においては、特に、体系的かつ基本的な知識・技能・態度の修得の徹底を期する。 (4) 特別活動においては、計画的、実践的、協力的人間の育成と生徒の個性の伸長につとめる。 (5) 生徒指導においては、生徒の個人的な現実の問題の解決を援助するとともに、将来の進路の開拓を指導する。
② 学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法等にのっとり、また本校の学校教育目標を達成するべく学校運営をすすめる。 (2) 筑波大学の附属学校として教育実習や教員免許状更新講習等に協力し、また、先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点の3つの拠点構想の実現をはかるよう教育・研究活動を推進する。 (3) 全教員の積極的な参加と協力によって学校運営を行うことに努める。
③ 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 入学者選抜に関わる校内体制と手順の再検討 (2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討 (3) 教育活動の外部への発信 (4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減 (5) 保護者・地域住民との連携の強化 (6) 情報セキュリティの強化 (7) 中長期的な財政運営の検討
④ 前年度（令和3年度）の成果と課題	<p>（成果）校務支援システムを本格稼働させるなど、諸業務の効率化による教職員の負担軽減について取り組んだ。</p> <p>（課題）施設設備の改善が不十分である。</p>

3 重点目標達成についての総括的評価	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 入学者選抜に関わる業務について、とくに問題作成のプロセスについて改善した。 (2) 将来構想の検討について、筑波大学将来構想検討委員会と連携し、将来構想に関する情報収集・研修会への代表者の参加を行った。 (3) 教育活動の外部への発信は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面では十分出来なかったが、オンラインを活用して行うことが出来た。 (4) 紙で行っていた諸業務のいくつかをオンラインに移行して効率化させた。 (5) 保護者や地域の方からの問い合わせや相談の電話に、丁寧に対応した。 (6) 情報セキュリティについては、「筑波大学オンラインストレージシステム」と、校内の校務支援システムを積極的に活用し、事故の防止に努めた。 (7) 財政運営の検討については、危機的な状況であることを認識しているが、改善策の検討が不十分である。 	

4 令和5年度の学校課題

- (1) 入学者選抜に関わる校内体制と手順の再検討
- (2) 将来構想委員会を中心とする本校の将来構想の検討
- (3) 教育活動の外部への発信
- (4) 教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減
- (5) 保護者・地域住民との連携の強化
- (6) 情報セキュリティの強化
- (7) 中長期的な財政運営の検討

5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- (1) 入学者選抜に関わる業務について、作業手順を文書化して、引継ぎの際に齟齬が無いようにする。
- (2) 将来構想委員会において、「カリキュラム・マネジメント推進」「教科外活動検討」「校務整理推進」を中心に、検討を継続する。
- (3) アフターコロナ時代に対応した外部への発信方法の検討を継続する。
- (4) 将来構想委員会での検討を生かしながら、教育・研究活動の scrap and build や事務の効率化による教職員の負担軽減について工夫をする。
- (5) オンラインの保護者向け掲示板システムを、学校からの情報発信や保護者との連携に役立てる。ホームページを活用し、地域住民との円滑な関係につなげる。
- (6) 校務支援システムを活用しながら、情報セキュリティ強化対策の更なる改善について検討する。
- (7) 大学からの運営費交付金・学年費からの教育環境改善経費・後援会からの寄付等、各種財源を見渡しての中長期的な財政運営について検討する。

6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

「筑波大学附属高等学校研究紀要 第64巻」

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 4 年度

学校名	筑波大学附属高等学校
-----	------------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	各教科の授業において、実験や実習を通じた体験的な学びや、話し合いを通して、自分の考えを深めたり発表したりする学びを引き出す実践を展開できた。
5-1-2	家庭や地域の関係機関、団体との連携の状況	「入構ガイドライン」を策定し、入構者の管理を徹底した結果、不審者の侵入等の事案を未然に防ぐことができた。関係機関・団体との連絡を密にし、安心安全な教育活動を継続できた。
8-1-4	校内研修・校外研修の実施・参加状況	校内研究会の時間を用いて、その時々ニーズに対応した研修を行った。支援教育推進委員会と連携して「要配慮生徒への支援」についての研修や、総務部と連携して「情報機器やシステム、セキュリティ」についての研修を行った。
9-1-2	学校の状況を踏まえ重点化された短（中）期の目標等の設定の状況	他校でも活用できる「総合的な探究の時間」の指導プログラムの開発に着手した。全教員が指導や運営に関わることによって、対象学年の全生徒が課題を設定して成果や研究結果を発表するまでの学習を、効果的に行うことができた。
10-1-1	学校に関する様々な情報の提供状況	新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での実施が困難だった学校見学会や学校説明会を、オンラインと併用しながら対面実施に徐々に切り替えていき、情報発信に努めた。
10-1-3	児童生徒の個人情報の保護の状況	「筑波大学オンラインストレージシステム」と、校内の校務支援システムを積極的に活用し、生徒の個人情報保護に取り組んだ。
11-1-2	地域住民から寄せられた具体的な意見や要望の把握・対応の状況	電話などによって地域住民から受ける意見や要望については、事務室、総務部、管理職が連携して、可能なものについては迅速な対応を行った。地域住民との会合など、積極的に意見や要望を聞く機会がもてていないことは課題である。
14-1-1	入学者選抜	問題作成のプロセスを見直す委員会を設置して、チェックリストを整備・確認し、出題ミスを未然に防ぐ体制の構築に努めた。
14-1-4	教員養成・教師教育	教育実習では、きめ細かな指導をすることができた。研究大会では、オンラインではあったが情報交換会を企画し、教員同士がそれぞれの教育現場の視点から学び合える場を提供した。
14-1-5	国際交流・国際貢献	海外への訪問・海外からの生徒招聘は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。オンラインを用いての代替行事においては、可能な限りの交流が実施でき、参加生徒の国際的な関心の継続に役立てることが出来た。